

WEL・NET

通信

2017.11

発行日 平成29年 11月15日
発行 西広島リハビリテーション病院
事業局
☎ 082-921-3230 (代表)
URL <http://www.welnet.jp>
E-mail wel@welnet.jp

- 特集1 地域連携室メンバーのご紹介!!
- 特集2 チームリハビリ最前線!
- 地域リハビリ研修会・地域での研修・イベント情報 など

WELNET 通信は、西広島リハビリテーション病院の地域リハビリ・地域連携に関わる活動をご紹介する広報誌です

病院長・地域連携部部长

岡本 隆嗣 OKAMOTO TAKATSUGU

①医師 ②広島県 ③カープの中継を見ること
④ウィル (病院併設のジム) で走ること
⑤患者さんのご紹介を頂き、そして退院後をお願いできる皆さまのおかげで、我々の仕事が成り立っていると、いつも感謝しております。

地域連携部副部长

岡 光孝 OKA MITSUTAKA

①作業療法士 ②愛媛県上島町 ③長男の少年野球の手伝い ④少年野球チームのためだけに、マイクロバスの運転免許をとりました! ⑤作業療法士として地域連携業務に携わりようになり、11年になります。今後とも引き続きよろしくお願ひ致します。

看護介護部副部长・地域連携担当

鈴木 恭子 SUZUKI KYOKO

①看護師 ②広島県 ③山歩き
④今年富士山に登頂しました。
⑤連携室や病棟スタッフの皆さま、是非一度西リハにおいでください。
30周年誌登場の西リハ太郎さんの入院生活についてなど、ご案内致します。

医療相談員・地域連携担当

豊嶋 奈保子 TESHIMA NAHOKO

①医療相談員 ②山口県
③ドライブ ④文房具屋さんに行くこと ⑤患者さん・ご家族に安心して入院していただけるよう、地域のみなさまとよりよいつながりができるよう、努めてまいります。よろしくお願ひ致します。

地域連携室 のご紹介!!

①職種 ②出身地
③趣味 ④最近のお気に入り ⑤連携機関の皆さんへのメッセージ

サービス開発室 室長

吉岡 章 YOSHIOKA AKIRA

①営業 ②広島県広島市 ③サッカー、ゴルフ、マラソン ④特になし
⑤回復期病棟でのリハビリが順調に進み、社会復帰できる架け橋になれば、「最高です!!」

サービス開発室

東 久勝 HIGASHI HISAKATSU

①営業 ②広島県広島市 ③ランニング、コーヒー ④休日の早朝ランにハマっています。コーヒーを飲むのが毎日の楽しみです。⑤入院される患者さんやご家族の不安を和らげられるような対応を心がけています。

地域連携担当看護師

武田 由紀 TAKEDA YUKI

①看護師 ②岡山県 ③我が子の写真撮ること ④子供達 (6歳・4歳・2歳)と一緒にカープの応援をすること!! 2歳のカープ女子もカンフーバットを持って歌っています♪ ⑤7月より病棟から異動してきました。地域の方との出逢いを大切に、選んで良かったと言ってもらえる場所にしていきたいと思っています。

地域連携担当看護師

宇根川 恵美子 UNEGAWA EMIKO

①准看護師 ②広島県 ③雑貨屋めぐり ④ムーミングッズ ⑤皆さんの困っていることを、1歩ずつ1歩ずつ一緒に進めるように、頑張ってください。



チームリハビリ最前線!!

西広島リハビリテーション病院で行っているリハビリテーションを一部ご紹介します。



天井走行リフト

2017.10.13 ~ NEW!!

リハビリ訓練室に、新たに天井走行リフトが登場しました！天井のリフトから下がったベルトで患者さんの身体を支えながら、歩行や動作の訓練を行うことができます。レール1周の長さは約40mで、広範囲に動くことが可能です。

天井走行リフトの利点は、訓練中の転倒をほぼ完全に防げるということです。リハビリ訓練では「本人にできるギリギリの課題」を練習するのが一番良いとされていますが、転倒の危険があると、それはなかなかできません。天井走行リフトを使えば、「倒れそうなギリギリのところ自分でバランスを取る」といった訓練もできるようになります。また、患者さんにはより安心感をもってリハビリ訓練を行っていただけますし、ご家族が介助の練習を行う際も、難しい動作も安全に練習していただけます。療法士も、転倒に配慮なくて良い分より良い訓練を提供することに集中できるのではないかと考えています。

まだ設置されたばかりの天井走行リフトですが、今後リハビリのレベルアップに大きく貢献することが期待されます。



◀ 重症度の高い患者さんも、立って歩く練習や自分でバランスを取る練習が安全に行えます。療法士も少し離れた位置から患者さんの動きを確認できます。

▲ 軽症の患者さんはより大きな動きを練習できます。

チームを支える専門職種

西リハのチーム医療には少数ずつながら大切な役割を担う専門職種も配置されています。

音楽療法士 計3名 (1名育休中)



音楽を取り入れて、リハビリをより効果的で楽しいものにします。たとえばリズム歩行訓練では、理学療法士が行う歩行訓練に音楽療法士の生演奏を加え、歩行リズムの獲得を目指します。言葉が出にくい失語症の方に対しては、単語にメロディとリズムをつけることで発話を促します。訓練でふれた楽器が趣味になって退院後も弾いています！という患者さんもいらっしゃるなど、音楽で生活の幅を広げる役割も果たしています。



音楽療法士 ひろせ ともよ 廣瀬 智陽

他の療法士からのコメント

- ★ 訓練のモチベーションがすごく上がると思います。リハビリでは患者さんのモチベーションを上げるってとても大切なことなんです。
- ★ 訓練室の雰囲気が明るくなります。初めて歌いながら歩いているのを見たときは、そこにオアシスが湧いたようでした (笑)
- ★ 楽器の知識も豊富で、もともと音楽が趣味という患者さんと一緒に演奏したりコンサートを開いたり、退院患者さんの QOL の拡がりにもつながっていると思う。

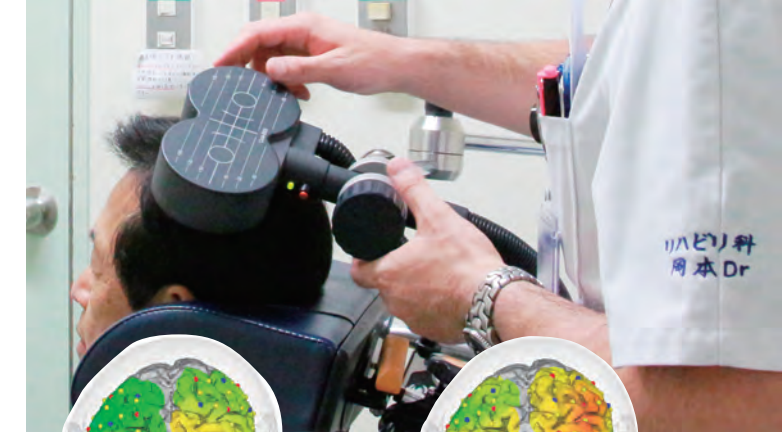
磁気刺激治療 (Neuro-15) & SMART NIRS

当院では、磁気刺激治療を取り入れた NEURO-15 という治療プログラムを実施しています。脳に磁気刺激を与え、その後に集中的な訓練を行うことで、上肢麻痺の改善を目指す治療法です。

もともとは生活期の患者さんが対象でしたが、平成26年度より回復期の患者さん^(※) に対しても治療を開始しました。平成29年10月現在で約20名の患者さんに対して治療を実施し、個人差はあるものの、回復期でも一定の成果が得られています。

また、SMART NIRS (近赤外光イメージング装置) を使って、磁気刺激治療を行う前後の脳の状態を計測しています。これによって治療効果を確認したり、患者さんに分かりやすく説明できるようになりました。

※ 治療の適応があると判断された方のみを対象としています。



損傷側 非損傷側 損傷側 非損傷側

磁気刺激治療前

損傷側の手(左手)を動かした際、通常とは反対側の左脳が活発に動いています。(活動量が上がると赤くなります)

磁気刺激治療後

磁気刺激治療で左脳の働きを抑制した結果、右脳が活発に動くようになりました。この状態で集中的に手指の訓練を行います。

KINECTを用いた関節可動域測定装置

MMV鑑-AKIRA-

人の動きを認識し、データとして取り込む「KINECT」という技術を用いて、患者さんの関節可動域を測定します。バージョンアップして、歩いている時の姿勢や重心の位置、対称性、膝の角度などのさまざまなデータをより簡単に計測できるようになりました。

また、計測したデータを分析して図表にするなど、より臨床で使いやすくなりました。



▲ MMV鑑-AKIRA-の画面



Honda 歩行アシスト

腰部・大腿部に装着し、足の動きをアシストするロボットです。歩幅やリズム、歩行速度や対称性の改善を目指します。最新の機種には、ステップ練習などの新しいモードが追加されました。ロボットとしては軽量で持ち運びやすく、簡単に装着できるため、訓練室での訓練だけでなく、屋外歩行の訓練などにも導入することができます。

臨床心理士 計2名



患者さん・ご家族の心のケアを行います。不安や辛い気持ちを抱えて、誰に相談すればいいのかわからない…。そんなときに、臨床心理士がじっくりとお話をお聴きして、一緒に解決方法を考えたり、ご家族や他のスタッフへの橋渡しを行います。また、さまざまな心理検査を行い、チームでリハビリプログラムや目標設定を検討する際の情報として役立てたり、患者さんがご自身の理解を深めるものとして活用し、生活期にスムーズに移行できるよう支援します。



臨床心理士 たぶく ようこ 田福 陽子

歯科衛生士 計4名



口の問題は全身のさまざまな疾患につながる可能性があるため、しっかりとケアする必要があります。当院ではすべての患者さんの口腔内を、入院時に歯科衛生士がチェックします。専門的な視点で確認することで、むし歯や歯周病、義歯の問題などを早期に発見することができます。また、積極的に口腔リハビリを行って食べられる口を作り、栄養状態の改善を目指します。このようにしっかりと口腔ケアを行うことで、患者さんには安心してリハビリに専念していただけます。



歯科衛生士 おかの まみ 岡野 麻美



2017年5月～9月に実施した地域リハビリ研修会です！

当院は **地域リハビリテーション広域支援センター** です！

当院は、地域におけるリハビリテーション支援体制を推進するための施設として、広島県から指定を受けています。地域リハビリ活動の一環として、地域リハビリ研修会を2～3カ月に1度開催している他、出前リハビリ講座の実施、区民まつりへの参加、広報誌やホームページ、退院患者統計での情報発信などを行っています。

全5回
シリーズ

のぼそう! 健康寿命

～いつまでも元気に暮らすための体づくり～

年をとってもできるだけ人の手を借りずに、自分の力で自分の好きなように暮らしていきたい。多くの人が、そう願っていると思います。そのために、「健康的に幸せに長生きしよう」つまり、「健康寿命をのぼそう!」ということが注目されてきています。今回のシリーズは、医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・管理栄養士が、それぞれの視点で「健康寿命をのぼすために必要なこと」についてお話しします。全5回のシリーズです。

- 1 いまこそ介護予防!
- 2 筋力・バランス
- 3 口腔ケア
- 4 維持・活動につなげる介助
- 5 食事と栄養

今回は1～3回のご報告です。



1 いまこそ介護予防!

地域リハビリ研修会
No.105

2017.7.8 (土) 13:30～15:30



第1回目はイントロダクションとして、「健康寿命とは?」「適度な運動、十分な栄養とは?」「脳卒中や認知症を予防するには?」といった、全

▲腕を動かしながら、筋肉が動いている様子を感じてみましょう。

体的なお話をしました。特に強調したのが、「運動は万能薬!」ということです。みなさんの生活に運動を取り入れていただくために、脈拍数から適切な運動強度を計算し、運動の種類や METs (運動の消費カロリー) と合わせて運動メニューを考える方法をご紹介しました。時折笑いの起こる場面もあるなど、和気あいあいとした雰囲気での講義となりました。

講師： 病院長 岡本 隆嗣 (医師)
受講者数： 42名

参加者の声

- 高齢者の生活に役立つ身近なこと、わかりやすく楽しい雰囲気でした。(一般参加者)
- 適度な笑いもあり、楽しくお話を聞けてとても頭に入りました。(利用者さんのご家族)
- 運動の効果と必要性を専門的な視点から学ぶことができた。(ケアマネジャー)
- 貯筋の話は、現在デイサービスでご利用者さんに運動の必要性を話すのにもおもしろく、参考になりました。(通所介護事業所運営)



地域リハビリ研修会
No.106

筋力・バランス

2017.8.19 (土) 13:30～15:30



健康寿命をのぼすためのカギとなる3つの要素は、「運動」「食事」「社会参加」だと言われています。第2回は「運動」をテーマに、「体力チェックの方法」「どんな運動をどのくらいやれば良いのか」「認知症予防に良い運動とは」「やる気を維持して続けるコツ」などについてお話ししました。会場を広く使い、参加者の皆さんにもたくさん運動していただき、活気のある研修会となりました。

▲「コグニサイズ(頭を使いながら運動をすること)」にチャレンジ。足踏みしながら3の倍数で手を叩きます。

講師： 理学療法士 松下 信郎
作業療法士 漆谷 直樹
受講者数： 28名

参加者の声

- 楽しみながら学習できた。講師の方々が温かい。(一般参加者)
- 足の筋力に効く運動のしかたなど、たくさんありました。(一般参加者)
- 歩き方がわかり良かった。(利用者さんご家族)
- 運動の時間の作り方など実際的な内容が良かった。(ケアマネジャー)
- 自分の体の事を知ることができ、どこが弱いかわかった。プリントを見て生活の中に取り入れたい。(介護職)

地域リハビリ研修会
No.107

口腔ケア

2017.9.9 (土) 13:30～15:30



▲口の機能をきたえられる「吹き返し」を体験していただきました。

口腔ケア]をテーマとして、歯科衛生士からは、歯を健康に保つことの大切さ、歯周病やむし歯、口の乾燥などの問題への対処方法をお話ししました。言語聴覚士からは、誤嚥性肺炎の恐ろしさについて、飲み込みの機能低下を防ぐための嚥下体操・嚥下リハビリの方法などをご紹介しました。

参加者の声

- 口の中のことは、身体にとっても大切なことだと思った(一般参加者)
- 嚥下体操をしっかりとしたのは初めてだったので、聞いて良かったと思いました。(利用者さんご家族)
- 歯みがき、体操、吹き返しを実際にできたのが良かった。患者さんに指導してみたい。(医師)
- 具体的な口の体操、早口言葉、ディケアでも取り入れていきたい。(介護職)

第4回・第5回研修会のご報告は、次回のWELNET通信に掲載予定です。お楽しみに!

4 維持・活動につなげる介助 2017.10.28 (土) 13:30～15:30

5 食事と栄養 2017.11.11 (土) 13:30～15:30



地域のイベント・研修会の開催・参加報告です。(2017年4月～10月)

広島県回復期リハビリテーションの会 H29年度 第1回研修会
これからの回復期リハ・生活期リハの
目指すべき姿 ～H30 医療・介護同時改定を見据えて～

2017.6.23 18:30～20:00 in 広島県医師会館



東京湾岸リハビリテーション病院の近藤国嗣先生にご講演をいただきました。来年度に医療介護の同時改定を控え、日本の医療介護が大きく変わる時期にきています。近藤先生には「退院時ではなく、退院後の生活を保障する回復期リハ病棟にならない。いかに患者を退院後も良くし続けるか、これこそが最大のリハビリテーションの目標である」との見解を示していただき、そのために必要なことについて、回復期から生活期まで多方面にわたる豊富な知見をご紹介いただきました。第2回の研修会は、12月13日に予定しています。

佐伯区 介護予防拠点整備促進事業
がんばれカーブ!ひろしま百歳体操

2017.9.20 14:00～16:00 in 石内福祉センター

佐伯区の介護予防拠点整備促進事業の一環として、「がんばれカーブ!いきいき百歳体操」の紹介&体験イベントが行なわれました。100名近い皆さんのご参加をいただき、当院からも運営スタッフとしてリハビリスタッフ4名が参加しました。体操の実施の他、日域整形外科クリニックの久保先生による運動効果についてのお話や、現在介護予防拠点として活動されている「アリスの会」の活動紹介なども行われました。



▲ スタッフは全員カーブのユニフォーム姿で、連帯感バッチリ!

脳卒中地域連携の会
第11回 脳卒中地域連携の会

2017.7.21 19:00～20:40 in 広島市民病院

脳卒中地域連携の会は、脳卒中に関する医療・介護関係機関の地域連携を強めるための会であり、当院は事務局として中心的な役割を担っています。今回の会は広島市民病院にて開催され、当院の大家(作業療法士)が、2016年度当連携の会版「地域連携パス」の実績報告を行いました。その他、「脳卒中再発予防教育プログラムについて」「シャントシステムの種類について」の講義と「再発予防について」のグループワークを行いました。



▲ 各テーブルで熱い意見交換が交わされました。

第7回 生活期・回復期連携推進会議
知ってほしい!生活期・回復期における
言語聴覚士の役割

2017.10.19 19:00～20:45 in 石内福祉センター



佐伯区の地域包括支援センターが主催となつて地域の在宅医療・介護連携推進のために行っている勉強会・意見交換会です。今回は約180名の参加がありました。

講師は当院の荏原幸恵(言語聴覚士)が務め、言語聴覚士が在宅医療に果たす役割についてご紹介しました。訪問リハビリで利用者さんと接してきた事例をもとに、在宅での接食・嚥下障害、失語症の実際や、どのような訓練・支援を提供しているかなど、動画や写真を使って在宅の様子を感じていただきながら、お伝えしました。

地域のイベント・研修会の開催・参加報告です。(2017年1月～10月)

※ 医師やスタッフの肩書き/氏名は掲載時点でのものであり、現在は変更している可能性があります。
※ DR:医師 PT:理学療法士 OT:作業療法士 ST:言語聴覚士 RM:リハビリマネージャー NS:看護師 CW:介護福祉士



新聞・テレビ・一般雑誌

- 2017.1.13 西広島タイムス「役立つリハビリ発刊 専門スタッフが執筆」 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.2.3 西広島タイムス「広島初リハビリ研究大会 10日から医師ら成果発表」 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.2.7 経済レポート「回復期リハビリテーション病棟協会研究大会を開催」 岡本 隆嗣 (DR・病院長)

テレビ

- 2017.3.8 ナオキング調査団「福祉専門学校の実習に密着」 小玉 暁 (CW)
2017.10.18 TSS みんなのテレビ「広島の女性ガンサーサンの力で難病克服」 吉野 高博 (事務・統括本部長) / 岡 千穂 (OT) / 尾崎 静香 (PT)

専門雑誌・書籍掲載

- 2017.2.13 The Journal of Strength and Conditioning Research30, Supplement p.10-11 Efforts OF HEALTH FITNESS PROGRAMMERS IN SHORT-TERM DAY-CARE REHABILITATION AND THEIR EFFECTS 伊藤 三千雄 (健康運動指導士) / 長尾 光城 (非常勤講師・兵庫大教授) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.6.5 言語聴覚研究 第14巻 第2号 p.134-138 ベコばんだ®使用時における舌骨上筋群活動量の定量的評価 大瀧 浩之 (ST)
2017.6.10 日本転倒予防学会誌 第4巻 第1号 p.11-21 回復期リハビリテーション病棟における転倒予防～患者安全委員会を中心とした取り組み～ 福江 亮 (PT・RM)
2017.6 日本リハビリテーション病院・施設協会誌 p.22-23 特集2平成28年度第2回リハビリテーション研修会シンポジウム 前回の報酬改定の検証と課題一同時改訂に向けての取り組みは 1.回復期リハビリテーション病棟は p.30-31 回復期リハビリテーション病棟協会第29回研究大会 in 広島を終えて 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.7.31 回復期リハビリテーション病棟協会機関誌 第16巻 2号 p.52-54 広島県回復期リハビリテーションの会 吉野 高博 (事務・統括本部長)
2017.9.25 Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science Vol.8 p.98-103 Differences in FIM improvement rate stratified by nutritional status and age in stroke patients in kaifukuki (convalescent) rehabilitation ward 藤高 祐太 (PT・副主任)
2017.9 Case Reports in Neurology p.179-187 Combination Treatment of Low-Frequency Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation and Intensive Occupational Therapy for Ataxic Hemiparesis due to Thalamic Hemorrhage 漆谷 直樹 (OT・主任) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長) / 木下 翔司 (DR) / 山根 伸吾 (OT) / 玉代 浩章 (OT・副主任)
2017.10.1 臨床栄養 vol.131 No.5 p.676-681 摂食嚥下障害へのアプローチ「嚥下造影検査(VF)による嚥下機能評価のポイント」 渡邊 光子 (ST・RM)

外部講演・学会発表

- 2017.1.27-28 第5回NSCA国際カンファレンス Efforts of health fitness programmers in short-term day-care rehabilitation and their effects 伊藤 三千雄 (健康運動指導士) / 長尾 光城 (非常勤講師・兵庫大教授) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.2.10-11 第29回研究大会 in 広島 講演・委員会企画・ランチョンセミナー:6名 口述発表:7名 ポスター発表:22名 ※多数のため詳細は省略させていただきます。詳しくはホームページをご確認ください。

- 2017.3.18 平成28年度第2回リハビリテーション研修会 シンポジウム 前回の報酬改定の検証と課題一同時改訂に向けての取り組みは-1.回復期リハビリテーション病棟 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.5.12-14 第52回日本理学療法学会大会 回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中患者の骨格筋量は増加しているのか?一栄養状態での比較- 中臺 久恵 (PT) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 藤高 祐太 (PT・副主任) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.6.8-10 第54回日本リハビリテーション医学会学術集会 ランチョンセミナー15 回復期リハビリテーション病棟における摂食・嚥下・栄養のチームアプローチ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
Clinical Efficacy following Two Courses of Low-frequency rTMS Combined with Intensive Occupational Therapy for the affected Upper Limb in post-stroke hemiparetic patients 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.7.1 第8回岡山県回復期リハビリテーション協会 研究会 回復期リハビリテーションのレベルアップ!スピードアップ!フォローアップ! 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.7.8-9 第8回 Stimulation Therapy 研究会 in 函館 回復期患者にfNIRSを用いてNEURO-15の実施時期を検討した1症例 漆谷 直樹 (OT・主任) / 須賀 奈々美 (OT) / 玉代 浩章 (OT・副主任) / 久留嶋 崇史 (OT・副主任) / 松田 崇志 (OT・副主任) / 井上 英二 (OT・RM) / 木下 翔司 (DR) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
NEURO-15 施行前のfNIRS測定による効果予想について 玉代 浩章 (OT・副主任) / 漆谷 直樹 (OT・主任) / 久留嶋 崇史 (OT・副主任) / 松田 崇志 (OT・副主任) / 井上 英二 (OT・RM) / 木下 翔司 (DR) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.7.15-16 第20回日本臨床脳神経外科学会 自動関節可動域測定装置「鑑」と理学療法士による角度計を用いた関節可動域の測定値比較 山岡 まこと (PT・副主任) / 松下 信郎 (PT・主任) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
回復期病棟入院患者に対するNEURO-15の実施について 漆谷 直樹 (OT・主任) / 玉代 浩章 (OT・副主任) / 久留嶋 崇史 (OT・副主任) / 松田 崇志 (OT・副主任) / 井上 英二 (OT・RM) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 木下 翔司 (DR) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
NEURO-15 施行前のfNIRS測定による効果予想について～回復期患者における検討～ 玉代 浩章 (OT・副主任) / 漆谷 直樹 (OT・主任) / 久留嶋 崇史 (OT・副主任) / 松田 崇志 (OT・副主任) / 山根 伸吾 (OT) / 木下 翔司 (DR) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
ホンダ歩行アシストが回復期脳卒中後片麻痺患者の歩行パラメータと歩行中の脳活動に及ぼす即時及び継続介入効果 藤井 琢磨 (PT・副主任) / 松下 信郎 (PT・主任) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 玉代 浩章 (OT・副主任) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
回復期リハビリテーション病棟入院患者における舌圧と食事形態の関連性について-第2報- 渡邊 光子 (ST・RM) / 今橋 郁美 (ST・主任) / 本田 容子 (ST・副主任) / 山内 温子 (ST・副主任) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.7.16 平成29年度理学療法士週間事業介護予防推進キャンペーン 長寿社会をイキイキと!自分の身体を知りましょ～元気になる体力測定と運動のポイント～ 藤高 祐太 (PT・副主任)
2017.8.22 佐伯区介護支援専門員 自主勉強会 リハビリテーションについて 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.9.15-16 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 回復期リハビリテーション病棟における吹き戻しの効果の検討 重川 由香 (ST) / 須々木 里美 (ST) / 渡邊 光子 (ST・RM) / 沖田 啓子 (ST・リハビリ顧問) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.9.30 沖縄県 回復期リハビリテーション病棟協会 第5回研究大会 特別講演 回復期リハビリテーションの現状と未来像 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2017.10.15 平成29年度介護予防推進リーダー導入研修会 予防事業の展開方法一予防冊子を利用した事業展開の例一 藤高 祐太 (PT・副主任)
2017.10.19 第7回 生活期・回復期連携推進会議 知ってほしい!生活期・回復期における言語聴覚士の役割 荏原 幸恵 (ST)

チーム紹介!

管理栄養士

管理栄養士4名で、3病棟と花の丘の患者さん・入所者さんの栄養管理を担当しています。仕事をする上で心がけている大切なことは何ですか?と聞きました。

宮脇…適切な衛生管理が行われ、安全で、時間通りにお食事を提供できること。内科的疾患のある方も多いので、服薬の時間がずれることがないよう、毎食決まった時間に遅れないように提供することが大切だと思います。

原田…低栄養を防ぐため、患者さんの体重や喫食量が減ることがないように気を付けています。食べられないという患者さんにしっかりと話を聞いて、なぜ食べられないのか、どういったものなら食べられるのか、チームの他職種とも相談して良い方法を考えていきます。

中西…衛生管理はもちろんですが、適切な食形態という点でも大切です。



栄養課課長

影山

原田

中西

宮脇

嚥下障害のある患者さんも多く、食形態が合わないと言ったり寝息などが、命の危険に関わります。食形態の検討にも配膳にも、細心の注意を心掛けています。

影山…やはりリハビリの病院ですので、「いかにリハビリを円滑に行えるようにするか」「いかにスムーズに在宅へつなげられるか」を常に視野に入れて栄養管理を行っています。患者さんの状態やリハビリの状況に応じて、看護・介護・リハ・歯科衛生士などと話し合いながら、日々食事内容について検討しています。

医療法人社団朋和会 基本理念

信じ合い、明日を拓く

私たちは「信じ合い、明日を拓く」という言葉を基本理念としております。

「信じ合う」という言葉は、患者さんと職員との信頼関係とともに、職員間の信頼関係をも含んでおります。

理想的なリハビリテーションは、ひとりの患者さんを中心に全スタッフが取り組むチーム医療が原点です。

たしかな信頼関係のもと、全職員が心をひとつにして治療に取り組めばそこには安心感が生まれ、患者さんに、より大きなご満足いただけるものと信じております。

「明日を拓く」という言葉は、現状に満足することなく未来へ向けて挑戦したいという私たちの願いです。

超スピードで進化する医学の流れをしっかりと見定め、フロンティア・スピリッツを胸に、どんな困難にも立ち向かっていきたいという気持ちをこの言葉で表現しました。

「信じ合い、明日を拓く」この言葉をいつも大切に考え、患者さんやご家族の皆さん、受診者の皆さんにご奉仕し、地域社会の発展に寄与していきたいと心より願っております。

医療法人社団 朋和会
初代理事長 岡本則昭

医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院

〒731-5143 広島市佐伯区三宅6丁目265番地
TEL: (082) 921-3230 (代表)
FAX (082)921-3237 E-mail wel@welnet.jp
URL <http://www.welnet.jp/>

★ 理事長・病院長：岡本 隆嗣



★ 広島中心部より車で約30分 ★ 広電楽々園駅より車で約10分 ★ JR五日市駅南口よりバスで15分

